

## 昨年度までの協議会の経過及び平成20年度の検討項目

	協議会	担当者会議	ワーキンググループ (WG)	成果及び検討項目
H16年度	第1回 H16. 8. 3 第2回 H17. 3. 29	第1回 H16. 9. 17 第2回 H16. 10. 27 第3回 H16. 11. 1 第4回 H16. 12. 2	—	① 協議会の目的及び進め方の検討 ② 四面会議による議論（課題の抽出・目標設定）を実施 ・防災、農政、都市計画、土木部局が参加 ・「地域で守る」「自分で守る」グループで四面会議実施 ③ 行動計画書の作成
H17年度	第3回 H17. 12. 1 第4回 H18. 3. 27	第1回 H17. 8. 4 第2回 H17. 8. 31 第3回 H17. 10. 26 第4回 H18. 2. 2 第5回 H18. 2. 23 第6回 H18. 3. 20	浸水危険度マップ（高頻度版）WG [モデル市：草津市] 第1回 H18. 1. 11 第2回 H18. 1. 30 第3回 H18. 2. 13 第4回 H18. 2. 20	① 情報伝達（情報取得・情報伝達・情報内容）の見直し検討 ② 浸水危険度マップ（高頻度版）の作成 ・草津市をモデル市として実施 ・確率規模別の浸水危険度マップ作成 ・都市計画用、農政用の2種類の図面を作成 ③ 避難勧告技術基準の考え方検討 マニュアル及び先行事例を題材として考え方を検討 ④ ため池の防災対策検討 豪雨等で破壊の可能性があるため池について現状を整理
H18年度	第5回 H18. 10. 24 第6回 H19. 2. 27 第7回 H19. 3. 29	第1回 H18. 7. 11 第2回 H18. 9. 7 第3回 H18. 12. 5 第4回 H19. 2. 19 第5回 H19. 3. 26	浸水危険度マップ （洪水ハザードマップ）WG [モデル市：草津市] 第1回 H18. 10. 18 第2回 H18. 11. 21 第3回 H18. 12. 21 第4回 H19. 1. 18 <草津市主催ワークショップ> 第1回 H18. 9. 30 第2回 H18. 10. 29 第3回 H18. 12. 9	① 浸水危険度マップ（洪水ハザードマップ）作成 草津市をモデル市として、住民参加型のワークショップ形式で洪水ハザードマップを作成 ② 情報伝達の見直し検討 情報伝達手法の現状と課題・今後の整備の方向性を確認（各市へのヒアリング調査を実施） ③ 情報内容の見直し検討 避難準備情報、避難勧告、避難指示の共通文案を作成 ④ 避難勧告技術基準（避難の目安となる指標）作成 野洲市をモデル市として、避難準備、避難勧告、避難指示の目安となる指標を作成 ⑤ 浸水危険度マップ（高頻度版）の公表と活用 草津市をモデル市として公表資料を作成するとともに、宅地造成業者等に浸水危険度を周知するための、浸水危険度マップ詳細版（拡大図面及び詳細な浸水深情報を記載）を関係部局での閲覧用資料として作成 ⑥ 土地利用のあり方についての議論 浸水危険度が高い地域の土地利用のあり方について、都市計画のマスタープランへの反映方法について議論 ⑦ 危機管理演習構想企画 草津市をモデル市とした、住民参加型の危機管理演習についての構想を企画
			避難の目安となる指標WG [モデル市：野洲市] 第1回WG H18. 11. 07 第2回WG H18. 12. 22 第3回WG H19. 1. 11	
H19年度	第8回 H19. 12. 6	第1回 H19. 7. 11 第2回 H19. 8. 6	①草津市における洪水避難訓練 H19. 5. 27 ② 行政内情報伝達演習 H19. 6. 12 ③ 土地利用のあり方WG （出前講座形式） 対象：栗東市 H20. 3. 17 野洲市 H20. 3. 19 大津市 H20. 3. 19 草津市 H20. 3. 20	① 草津市における洪水避難訓練の実施 ② 行政内情報伝達演習の実施 ③ 情報伝達・情報内容の見直し検討 ④ 自主防災組織の活性化検討 ⑤ 災害時要援護者に対する援護検討 ・円滑かつ迅速な避難を確保するための措置の促進 ・援護体制についての情報共有 ⑥ 浸水が想定される地域の土地利用のあり方検討 ・土地利用のあり方検討（意見交換・実施方針検討） ・高頻度浸水区域の土地利用変遷・具体的危険箇所の整理 ・浸水危険度マップ（洪水ハザードマップ）の普及検討
H20年度	第9回 H20. 7. 28 第10回	第1回 第2回 第3回	①土地利用のあり方検討WG （出前講座形式） 対象：守山市 H20. 4. 30	①土地利用のあり方検討 ②災害時要援護者支援策の検討 ③浸水危険度マップ活用普及策の検討